



農作業メモ



水 稲

田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

中干し後からの水管理

中干し終了後(平年5月末日)から穂ばらみ期前までは、間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょう。

穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけてみましょう。畦から1m以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚のほ場から3株以上取ります。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測ります。長さが1.0～1.5ミリの頃に穂肥を施用します。

穂肥の目安(出穂前25日前後——幼穂長1.0～1.5ミリ)

稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉 色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	15kg	10kg	施用しない

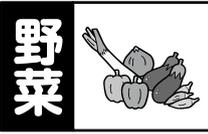
葉色の判定は、葉色板(カラスケール)を使用してください。太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

病虫害防除

特別栽培においては防除回数に限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底による耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。

尚、今年産も、いもち病・紋枯病の予防として、オリブライト1kg粒剤または豆つぶの散布をお願い致します。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけるとともに、栽培管理台帳への記入もお願いします。



春インゲン今後の管理



野 菜

小林 優介
下島管農指導センター
080-1729-1635

これからの時期は、ハウス内温度、湿度共に高くなってきます。このため、灰色カビや、品温の上昇による蒸れ等発生しやすくなりますので、防除や収穫後の管理、換気等は注意をお願いします。

温度管理

15～25℃で日中30℃以上にならないように注意してください。

灌水・追肥

極端な乾燥は、収量・品質に影響するので、着莢後は少量多回数の灌水を行いスムーズに太らせませす。草勢を見ながら行い、後半は液肥で行います。

- 例)穴肥 アサヒエース
- 液肥 トミー液肥ブラック等(500倍)
- 葉面散布 メリット青(500倍)

摘葉

摘葉は収穫を行いながら行い、老化葉・病害葉・込み合う葉を摘葉し通風、採光を良くし、病虫害の発生を抑制しましょう。一度に沢山摘葉をすると樹勢の低下につながるため注意が必要です。

病虫害防除

ヨトウムシ類、マメハモグリバエ、アザミウマ等

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	ハモグリバエ類
プレオフロアブル	1000倍	収穫前日	2回	オオタバコガ、ハモグリバエ類
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
パダンSG水溶剤	1500倍	収穫前日	3回	マメハモグリバエ
ディアナ SC	2500～5000倍	収穫前日	2回	アザミウマ類

灰色カビ病

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
セイビアーフロアブル 20	1000～1500倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病





5月・6月の柑橘園管理



果樹
鶴浜 研二
上島営農指導センター
080-1771-4257

1. 病害虫防除

品種	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	水100ℓ当たりの 使用量	散布時期
全品種	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	モスピランS L 液剤	4,000 倍	25ml	開花期
全品種	灰色カビ病 そうか病	ファンタジスタ 顆粒水和剤	4,000 倍	25 g	開花期
中晩柑	ホコリダニ	アグリメック	2,000 倍	50ml	5月中旬 ～下旬
全品種	黒点病	ナティーポフロ アブル	1,500 倍	66.6 g	(開花盛期 ～落弁期)
全品種	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	トランスフォー ムフロアブル	2,000 倍	50ml	6月上旬 ～下旬
	黒点病	混用 ジマンダイ セン水和剤	600 倍	166.6 g	
	展着剤	加用 アビオンE	1,000 倍	100ml	
温州	ミカンハダニ	ハーベストオイル	150 倍	666.6ml	6月中旬 ～下旬
	ミカンサビダニ	混用 サンマイト 水和剤	3,000 倍	33.3 g	
中晩柑	ミカンハダニ	ハーベストオイル	150 倍	666.6ml	6月中旬
中晩柑	黒点病	ジマンダイセン 水和剤	600 倍	166.6 g	6月下旬
	ミカンサビダニ	混用 サンマイト 水和剤	3,000 倍	33.3 g	

※ケシキスイ類、コアオハナムグリには、エクシレルSE5,000倍も使用可。(開花期)
 ※灰色カビ、そうか病はフルーツセイバー 1,500倍も使用可。(開花期)
 ※カイガラムシが多い園では、モベントフロアブル 2,000倍を散布。(5月中旬～下旬)
 ※カイガラムシが多い園では、再度エルサン乳剤 1,000倍を散布。(6月中旬～下旬)



2. 施肥

○通常タイプ

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
早生・中熟・普通温州	ニュー熊本果樹2号	5月下旬	4袋
河内晩柑・清見・甘夏・ パール柑・ポンカン	ニュー熊本果樹2号	6月上旬	5袋
デコボン	ニュー熊本果樹3号	6月上旬	4袋

3. 葉面散布

目的	薬 剤 名	希釈 倍数	備 考
樹勢 回復	尿素又は アミノジューシーN14 又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後：3回程度集中散布 及び発芽～新梢伸長期
緑化 促進	葉面マグ	200 倍	緑化が遅れそうな場合
新梢 充実	ジューシーカル	1,000 倍	デコボン等

4. 着果対策(かんきつ)

ジベレリンの散布…ジベレリンを散布する事により、着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布しましょう。尿素を500倍加用する事により効果が上がります。

○使用時期…開花～満開10日後(開花後処理時期が早いほど効果が高い)

希釈表 (開花期) 25ppm	ジベレリン液剤 40mlの場合	水8ℓに 1本	尿素 500倍(16g)	使用液量 10a当たり 50～100ℓ
	ジベレリン液剤 100mlの場合	水20ℓに 1本	尿素 500倍(40g)	

西・中央

水稲苗渡し、田植えが順調に行われました。

JAあまくさでは6カ所の育苗ハウスで早期水稲苗を栽培しており、繁忙日には職員が応援に駆けつけながら、組合員に受け渡すまで大切に育成管理を行っています。

中央支所・西支所の育苗ハウスでは4月1日から中旬まで苗の受け渡しや配送を行いました。

また、田植えについても順調に行われ、河浦町の農事組合法人一町田下の皆さんも4月1日から田植えを始め、皆で力を合わせて作業されていました。代表の平野昭弘さんは「去年は8月の長雨で大きな影響を受けたので、今年は天候に恵まれ豊作になることを願っています。」と話されました。



① 苗を軽トラックに積んでいる様子。(新和町)
 ② 苗に散水している様子。苗が、緑色の絨毯のようにきれいです。(河浦町)
 ③ 力を合わせて田植え作業をする(農一町田下の皆さん。(河浦町)